中庄団地再計画構想

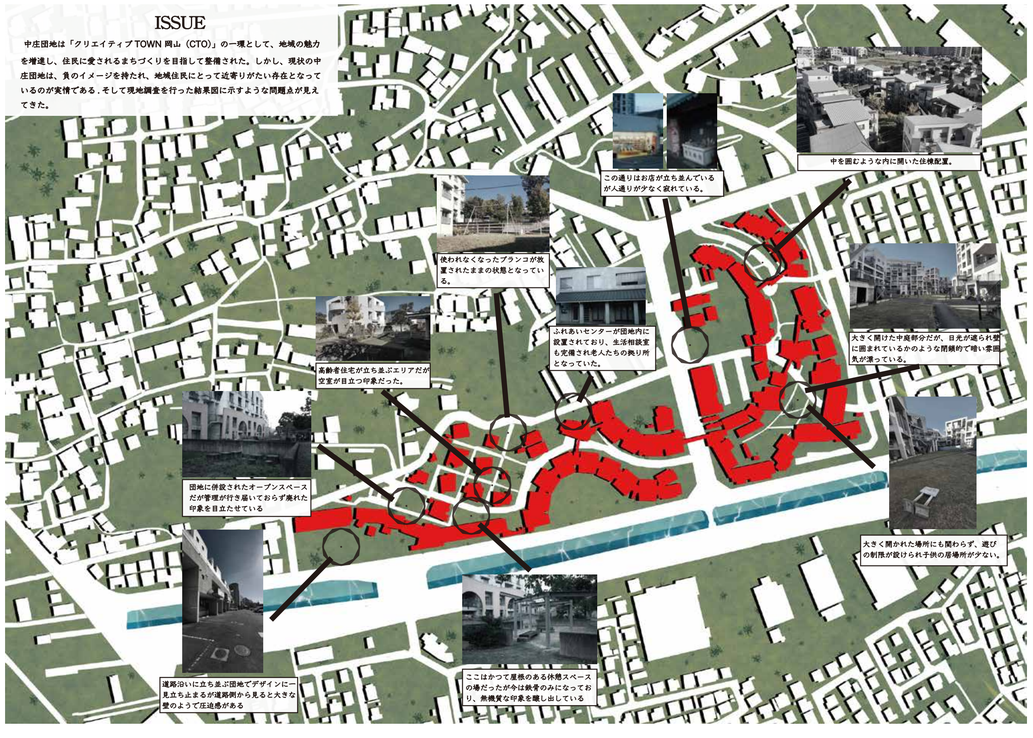
BACKGROUND

岡山県倉敷市には「中庄団地」という特徴的な団地が存在する。この団地は、倉敷市中庄地区において 1961 年に造成された県営団地が老朽化したことを受け、1990 年代に建て替え計画が実施されたものである。

敷地の西側には道路と六間川があり、リニア棟はその地形に沿って湾曲する形で配置されている。この棟は、コンクリート打放しの外壁とリズミカルなスカイラインを特徴とし、都市空間に独自の景観を形成している。リニア棟の背後には、グリッド状の敷地に矩形のポイント棟が配置されている。これらの住棟は、高齢者や身体障害者向けの住戸として設計されており、敷地内には植栽、ベンチ、塀などが設置されている。これにより、集合住宅としては達成が難しい、ランドスケープと住戸の一体化を実現し、集落のような環境を形成している。中庄団地は、画一的な団地設計が主流であった 1990 年代初頭において、住棟を並行配置する従来の手法から脱却した、意欲的な集合住宅の一つである。しかし、現在に至っては、倉敷市内の住民から「治安が悪い」「暗い雰囲気がある」「住民の人柄が良くない」「怖い」といったネガティブな印象を持たれているのが実情である。特に親世代や高齢世代の間では、中庄団地は敬遠される地区の一つとなっており、近寄りがたい場所と認識されているのが現状となっている。

ISSUE

中庄団地は「クリエイティブ TOWN 岡山（CTO）」の一環として、地域の魅力を増進し、住民に愛されるまちづくりを目指して整備された。しかし、現状の中庄団地は、負のイメージを持たれ、地域住民にとって近寄りがたい存在となっているのが実情である .そして現地調査を行った結果図に示すような問題点が見えてきた。



PLANNING METHODS / DIAGRAM

a

第１期
ポイント棟の組み合わせ

b

第１期
リニアに沿ったデザイン

c

第２期
外部とのつながりのある路地空間

d

第２期
開放廊下型の配置計画

e

第２期
集落のような空間構成

f

第３期
通路に設けられたパブリックスペース

g

第３期
ピロティで繋ぐ空間構成

h

第４期
ブリッジで建物を繋ぐ構成手法

i

第４期
全棟を回遊できる動線計画

構成要素

中庄団地の再計画において、これまでの建物の構成手法を「記憶」として引き継ぎ、新たな建築に反映させる。本計画では、以下の各期の特徴を建物の設計に組み込む。

第１期
・リニア棟とポイント棟の組み合わせ
・グリッド状の基盤による配置計画

第２期
・開放廊下型の設計手法
・路地空間を意識した、集落のような配置計画

第３期
・通路に設けられた広いパブリックスペース
・ピロティを用いた空間の接続手法

第４期
・ブリッジで各棟を繋ぐ構成手法の多用
・回遊性の高い動線計画

01

計画敷地の内側に建物を配置し、外周部分を公園として設けることで、外部に対して開かれた構成とする。

02

第１期の核となるリニア棟とポイント棟を組み合わせた平面配置とする。

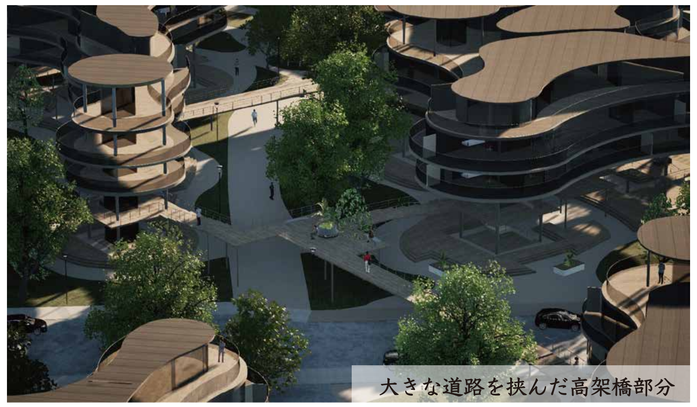
03

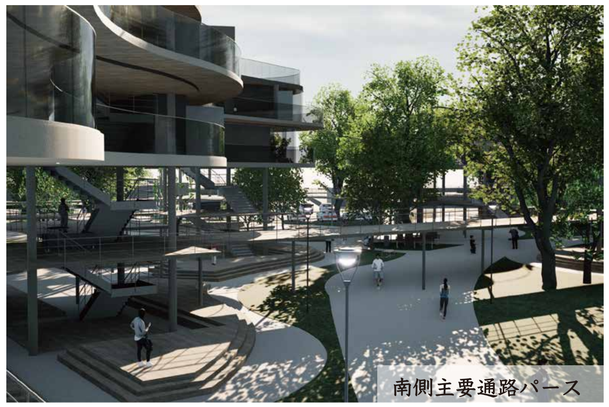
第１期で採用された基盤目状の配置を踏襲し、主要構造体をグリッドの角度に合わせて配置する。その際、第２期から第４期の特徴的な構成手法を取り入れながら計画を進める。

5621047 平岡龍

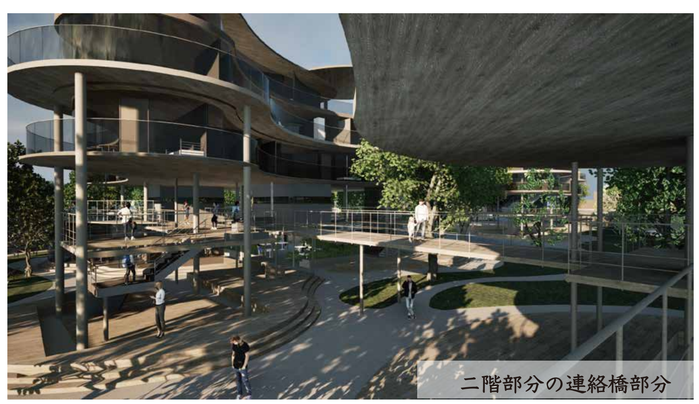
FLOOR PLAN AND FIRST FLOOR PLAN

ARCHITECTURAL PERSPECTIVE

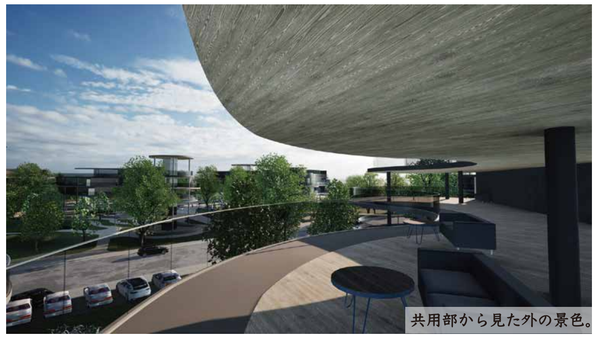

大きな道路を挟んだ高架橋部分


南側主要通路パース

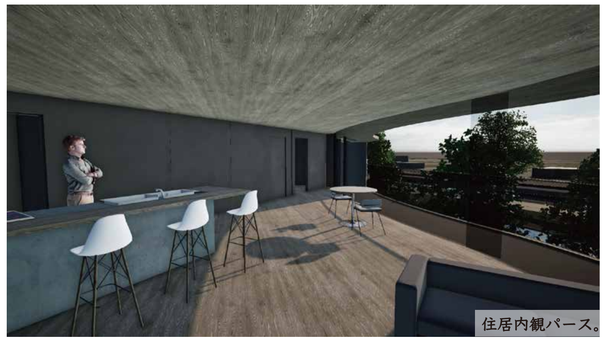
上から見たカフェの部分一階注文しそのままイートインもできる。２階のテラス席でも食べれます。

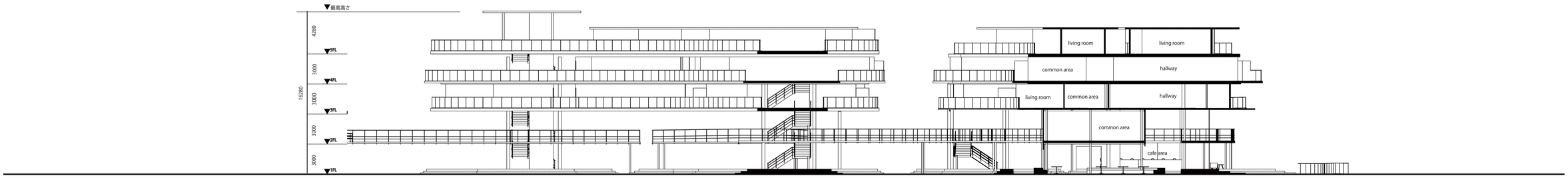

二階部分の連絡橋部分

共有スペースとなっており、真ん中は水が張っていてとても居心地がいい場所。

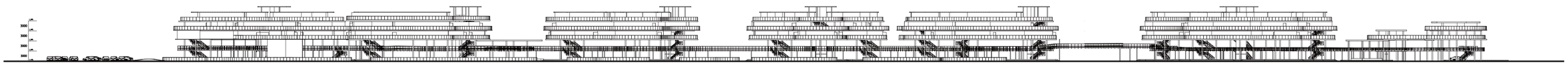

共用部から見た外の景色。

２階テラス席部分。


住居内観パース。



A―A 断面図　S＝200



西立面図　S＝1／600

5621047 平岡龍